

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●総会報告	1
●海外ニュース／お知らせ	3
●満洲の水	4
●ブック・エキスポ2013	6
●NY通信	7

総会報告

2013年度定時総会は5月17日(金)午後4時30分から国際文化会館(東京都港区)にて開催された。

〔出席状況〕	出席 27 社
	委任状 21 社
	計 48 社

正会員54社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協定会款第31条の規定に基づき本総会は成立した。

深町総務委員(トムソンロイター)の司会・進行により開会、正田事務局長より総会出席状況(上記)および2012年度の会員動向が報告された。

会員動向:退会は太陽洋書、幸洋商事の2社、入会は無かった。

山川理事長(ユサコ)の開会の挨拶の後、理事会及び各委員会の2012年度の活動内容^(*)が、報告された。(一部資料での説明)

議案審議〔議長:山川理事長〕

【2012年度決算報告】

長谷川総務委員長(ユサコ)より2012年度の決算内容の説明^(*)があり、その後唐澤監事(ゲーテ書房)より監査報告がなされた。採決の結果2012年度の決算は承認された。

ここから議事運営は新理事会に移った。

議案審議〔議長:土方新理事長(丸善)〕

土方理事長から新理事の紹介に続き、今年度の活動予定が報告された。(各委員長)^(*)

【2013年度予算案】

河村総務委員長(丸善)の内容説明^(*)の後、採決の結果2013年度予算は可決、承認された。

以上ですべての議事を終了し、グレシャム副理事長(UPS)の挨拶を以て2013年度定時総会を閉会した。

発言内容

(*)

1. JAIPホームページコンテンツの充実を図った。
2. SIG (Special Interest Group) 活動の活性化

今年度は業界の動向についての講演会のほか、文化講演会(日韓比較文化考:朝倉敏夫氏-国立民族博物館)や、東京都写真美術館で異業種交流会を開催し、それぞれで多数の方に参加頂き好評を博すことができた。

3. 役員の改選について

より多くの会員に協会役員を経験してもらい、斬新な意見に基づく協会活動を図ろうという観点から従前に役員選出規程を改正し、今回の役員改選は前回の当選順位が2、4、6番目に該当する三社(日本出版貿易、雄松堂書店、東亜ブック)は被選挙権を有さないという規程に基づいて実施した。選挙結果につきましては既報の通り。

今後の役員選出についてコメントさせていただきます。役員選出規程では、役員の任期は連続2期となっており、次回2015年の役員選挙におきましては、現在引き続き理事に選任されている3社(丸善、ユサコ、UPS)は被選挙権を有さないことになります。今回被選挙権を有しなかった3社は被選挙権を有することになります。

(*)

1. 収入の部

会費収入の減は、当初新規会員を見込んで予算化しましたが、残念ながら見込みが外れてしまったためです。ダイレクトリーの広告収入は約10%予算を上回ることができました。その他の項目は概ね当初の予算通りの進捗となっております。

2. 支出の部

セミナー等開催費の繰越額が大きい理由は、SIGとして各種講演会等を開催しましたが、その際の参

加料/会費として受益者負担という観点から出席者に若干の出費をお願いしたことによります。その他事務局で事務の合理化に努めた結果事務運営費で大きな節減を果たすことができました。

(*3)

***総務委員会（河村委員長）**

- ・洋書協会での活動経験のない委員長です。よろしく願いいたします。不慣れではありますが、土方理事長をサポートして、協会全体のスムーズな運営を実現したいと思います。
- ・前年までの活動方針を踏襲して、前委員長の長谷川氏をはじめ、委員を継続いただける先輩のみなさんご指導の下活動いたします。
- ・消費税増税に関しては、前回の電子媒体不課税取扱の際と同様に、協会のメンバーの方に有益な情報提供の場を作っていこうと考えています。

***メディア・広報委員会（旧会報）（平野委員長・ユサコ）**

具体的には、既に会報などに盛り込まれておりますがインタビュー記事や特集記事を効果的に配し、できれば楽しい紙面をお届けできればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。」

***事業委員会（奥村委員長・センゲージラーニング）**

当面の東京ブックフェアでの洋書バーゲンセール

に全力を尽くします。初めての経験ですので、各委員の協力をいただいて顧客に満足頂けるセールにしたいと思っております。

***文化・厚生委員会（鶴委員長・東亜ブック）**

今年度よりレクリエーション委員会改め文化厚生委員会として新たに2社に加わっていただき計7社で活動を行います。

従来のボウリング・ゴルフ・麻雀の同好会、パーティーの開催はもちろんですが、文化活動として女性の委員3名の意見を大いに取り入れ、今までになかった新しい企画を開催する予定です。

皆様に楽しんでいただけるよう委員一同で精一杯頑張りますので多数のご参加お待ちしております。

(*4)

- ・基本的に、前年の収入支出に合わせて、予算を組み立てた。
- ・既に、名称の変更が発表された、会報委員会はメディア・広報委員会に、レクリエーション委員会は文化厚生委員会に読み替えて、いただけますようお願いいたします。
- ・支出の部で、前年実績を超えて、予算を積んだのは、会報制作費及びセミナー等開催費です。協会内外への情報発信に関わる活動強化を期待しています。





◆Kobo、2013年第1四半期は売上増

Koboは2013年第1四半期の電子書籍端末の売上が、前年比145%増で、4月に欧米圏で発売した新型の電子書籍リーダー「Kobo aura HD」は、そのうち25%以上を占める、と発表した。

同社は、電子書籍端末とコンテンツを合わせた売り上げが前年比二桁の伸びを見せ、98%の増収となった。

売上実績の具体的な数字の公表はなかったが、Koboによるとユーザーは250万人増の1450万人となり、新規ユーザーの15%はアメリカからだった。

イギリスでのEブックの売上ランキングは、5位がGillian Flynn “Gone Girl” (Phoenix), 4位Karin Slaughter “The Unremarkable Heart” (Cornerstone Digital), 3位Bill Benner “My Sister’s Keeper” (McBryde), 2位 James Patterson “Bloody Valentine (Cornerstone Digital), 1位がKatia Lief “One Cold Night” (Blue Table Books)。(すべてミステリー／スリラーだった)

また、現在10万タイトルあるKoboの電子書籍自費出版サービスKobo Writing Lifeからの売上が、全体の10%を

占めており、ベストセラーのトップ50位のうち10%はそのようなインディーズの作家のものである。

(The Bookseller online, 28.05.13)

◆Ingramが新しいIPODの選択肢として IngramSparkを発表

Ingramが、中小出版社向けのPublish on Demand (POD) 事業としてIngramSparkを開始する。IngramSparkは、中小出版社が紙の書籍や電子書籍を販売するための、安価で操作の簡単なプラットフォームを提供するものである。5月に行われたBook Expo America (BEA)で発表されたIngramSparkは、現在の配本・配信システムをより使いやすくする目的で作られたもので、7月には事業を開始する予定。Vice President兼 General ManagerのMark Ouimetは、「IngramSparkによって出版社の方々は、簡単に登録をして、ほんの2、3分でコンテンツをアップできるようになります」と話している。Ouimetによると、このプラットフォームを利用すれば、中小出版社は電子書籍もオンデマンド印刷の書籍もこれひとつで簡単に用意できるようになる。価格体系については詳しいことは語らなかったが、それは「適度」に「競合する」ような料金設定になるだろうとOuimetは話している。なお、この事業は中小出版社のためのものであり、個人の作家向けのものではない。

(Publishers Weekly online May 30, 2013)

ニュース提供:U.P.S.

お知らせ

退 会 幸洋商事株式会社
3月末付
会社解散のため

移 転 株式会社 ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン
〒108-0073 東京都港区三田1-3-31 フォーキャスト三田ビル5階
TEL : 03-5427-1975 Fax : 03-3451-2025

有限会社 緑書房
〒564-0032 大阪府吹田市市内本町3-7-13
TEL : 06-6318-2728 Fax : 06-6318-2766

満洲の水

尖閣諸島の問題が沸騰している最中に何で中国旅行なの、と周囲が訝る声をよそに旧満州の旅を試みました。こんな時だからこそ日中友好の旅もしなければならぬ、と言えば格好がよいのですが、安くて旨い酒がふんだんにある中国は以前からお気に入り、年一回くらいのペースで行っています。広大な多民族国家中国は食べ物も一様ではありませんが何処へ行っても美味しいものがあります。それに加えて世界遺産やそれに匹敵する古い遺跡などがてんこ盛りです。いずれイタリアを抜いて世界遺産大国にもなることでしょう。一昨年は重慶など、昨年は南京などを回って来ましたのでもう怖いものはありません。しかし土地の人たちは親切でした。旧満州も嘗ては日中激突の地で、関東軍が跋扈し、ロシアが敷設した東清鉄道を接収して発展させた満鉄が幅を利かせた所です。関東軍幹部や満鉄幹部が常宿にしていた、大都市に残る大和ホテルがいまだに使われ、また関東軍や満鉄の建物が依然として中国地方政府などの大事な建物として利用されています。そう考えてみますと、日本が残したいわば爪痕は必ずしも負の遺産だけではなく、プラスの遺産として考えてもよいのかも知れません。

今回2012年9月7日から14日の一週間ほどの旅行で、同行者は元同僚・元同業仲間を含む6名で、総勢7名のグループ旅行です。まず成田を立ち、北京経由で黒竜江省は哈爾濱へ飛びましたが、北京でのトランジットが4時間半と長く、ここは青島ビールで時間を潰すよりありません。かぼちゃの種のおつまみもいけました。哈爾濱空港に到着したのは夜の6時半頃、宿到着までさらに1時間。日はとっぴりと暮れていました。長春、瀋陽、大連と鉄道を乗り継ぐ起点の哈爾濱駅は巨大なロシア風建物で、宿はその真ん前でした。東北地方はどこに行っても昔ロシア人や日本人が造った建物が多いのですが、ここ哈爾濱はロシア人が開いた街だけあって、一瞬モスクワにでも来たかのような錯覚に陥るようなロシア色の強い街です。聖ソフィア大聖堂を始めとするロシア正教の教会は言わずもがなですが、最大の繁華街中央大街の街並みは一瞬中国にしていることを忘れさせてくれます。ロシア料理店もあちこちにあり、二日目にランチを楽しみました。中国では伝統のあるハルビン・ビールを飲みながら、ボルシチなど典型的なロシア料理に舌鼓を打ちました。土曜日だったこともあり中央大街の賑わいは大変なもので、ハルビン・ビールの生を飲ませるビヤガーデンも何か所かにあり人気でした。ランチの後は太陽島とい

う松花江の中洲に船で渡り、公園の散策を楽しみました。松花江は黒竜江（アムール川）に注ぐ大河です。哈爾濱は新潟市と姉妹都市ということで、島の中には日本風の友好記念庭園がありました。

その晩は嘗ての大和ホテル（現在は貴賓楼）に行き晩御飯を食べました。宿泊施設ですが、立派なレストランがあります。東北地方の料理は南の方と比べると素朴で料理の種類もそう多くはありません。水餃子や肉じゃがのような豚肉料理、木耳がはいった野菜料理、茹でたトウモロコシなどが出て来ます。どれも日本人の口には合います。

哈爾濱には抗日戦争を戦った中国人の功績や旧日本軍の蛮行を展示した東北烈士記念館があり、日本人にとっては重苦しい見学になります。東北の各都市には似たり寄ったりのものが必ずと言っていいくらいあります。

三日目の朝、哈爾濱を後にして約2時間、吉林省長春に向かいました。車窓風景はほぼ一面のトウモロコシ畑。乗り込んだ列車は和諧（ハーモニー）号といい、日本の新幹線のような感じの車両で、哈爾濱・長春間をノンストップで走り、時速はほぼ一定の144km。2011年に脱線落下事故を起こしたものと同種の車両ですが、乗り心地は悪くありません。

長春では駅前の旧大和ホテル（現在は春誼賓館）に一泊しました。長春には旧関東軍司令部（現中国共産党吉林省委員会）、旧日本軍憲兵隊本部（現吉林省庁舎）、旧満州國務院（現吉林大学基礎医学院）など、日本人が建てたがっしりとした建物がそのままに残され使われています。長春は戦前の新京で、清王朝最後の皇帝にして後の満州国皇帝愛新覚羅溥儀の皇宮が残っています。中国は旧満州に残る遺跡には偽満という言葉を冠し、この皇宮も偽満皇宮博物院としています。

この日は宿泊ホテルで晩御飯を楽しみました。東北地方で一番よく見かけた雪花（シュエホア）ビールはやや度数が低いのですが、さっぱりしていて口当たりがよく、今回の旅行でのお気に入りとなりました。青島ビールに勝るとも劣らない良品です。雪花ビールは東北地方の瀋陽が発祥の地で今や全国区となり、なんでも生産高は中国一と聞きました。その次が北京発祥の燕京（ヤンジン）ビール、三番目が青島（チンタオ）ビールと聞き意外でした。日本にいる限り青島ビールが生産高一番に思えます。雪花ビールにしてもハルビン・ビールにしても満洲の水の良さを証明しています。気温の低さも加勢しているのでしょう。中国人の好きな蒸留酒パイチュー（白酒）も

旧満州ではよく生産されているようで、どこのスーパーにいても多くの銘柄が所狭しと置いてあります。日本人はせいぜい貴州省の茅台酒と四川省の五糧液の名前を思い起こす程度ですが、そのような高いお酒は減多に置いてありません。茅台酒や五糧液は贈答用に使われるのだと聞きました。

翌朝再度和諧号に乗り第三番目の訪問地遼寧省瀋陽に向かいました。ノンストップで約3時間、車内の売り子から雪花ビールを買って一杯です。東北地方最大の都市瀋陽は駅も立派で哈爾濱駅よりも更に大きく、待合室はさながら飛行場の待合室といった感じでした。

瀋陽は中国最後の王朝清の発祥地で当時は盛京と呼ばれ、女真族（現満族）の英雄ヌルハチが17世紀初頭に後金としてこの地に建国をしたというものです。後にその息子の太祖ホンタイジは都を北京に移し国名も清と改め紫禁城に居を移すことになります。愛新覺羅溥儀のご先祖たちです。

他の東北都市と異なり、瀋陽は清王朝の初期の歴史的遺跡が残され、観光の根幹をなしています。ヌルハチの居城としての瀋陽故宮は市街地の真ん中にあり、立派な古い建物が当時のまま残っています。またヌルハチの墓陵である福陵（東陵）、ホンタイジの墓陵である昭陵（北陵）は市街地のはずれにあって威容を誇り、いずれも世界遺産に登録されています。瀋陽での二日目の午後、旧大和ホテル（現在は遼寧賓館）でアフタヌーン・ティーと洒落込みました。美味しいコーヒが出て来ましたが、日本円で600円強と現地の人が飲めるような値段ではありません。ファストフードの麺類などが一杯100円もしないので破格の値段です。ホテル・ロビーには張学良の第二夫人が弾いていたというピアノの名器スタインウェイが飾っており、これにはびっくりしました。

瀋陽でのもう一つの見ものは満州事変に関わりの深い張作霖・張学良親子が住んでいた大邸宅の跡、張氏帥府博物館です。敷地内の奥にある居住棟である大青楼と小青楼は大きな西洋風建築で当時の軍閥、張氏の勢力の大きさを物語っています。

瀋陽最後の晩は朝鮮人街に繰り出し、平壤館という北朝鮮国営の高級レストランに行きました。そもそも朝鮮族は朝鮮半島だけではなく中国東北地方にも広く分布、生活していますので、辺縁の満族や漢族に溶け込んでいます。食事がひとしきりすると、バンドが出てきて朝鮮の民謡などを奏でます。歌手もいて、日本人客のために「北国の春」を日本語で歌ってくれます。訛りのない綺麗な日本語で節回しも見事です。歌舞音曲を担うのは全てそれまで給仕をしてくれていた若い女性たちで、瞬時に着替えをしての演奏です。おそらくは歌舞音曲に心得のある女性たちが送られて来るのでしょう。



ハルビン・ビールのピアホール（哈爾濱）

旅程第六日目、瀋陽を後にして最後の投宿地大連に鉄道で向かいました。この日は和諧号でなくやや古臭い感じの列車で、途中2回ほど停車しながら4時間程かかりました。またまた雪花ビールの出番です。この区間約400kmには撫順、鞍山といった炭鉱地が控え、遠くに小高い山々が見え隠れします。到着した大連駅は東京の上野駅を模したといわれ、駅前は一瞬浅草口にいるかのような雰囲気です。上野駅よりは格段に大きい建物です。

大連は「坂上の雲」でお馴染みの大陸進出の拠点で、郊外の旅順には日露戦争の決戦地203高地など当時を物語る場所が数多くあります。近年になってようやく観光出入りが許されたといえます。大連は中国の街としては例外的に清潔感があり、アカシヤの並木道やプラタナスの木立も見事です。人々も親切でした。日本企業の進出が盛んで駐在員も数多く住んでいると言われます。焼き鳥屋やたこ焼き屋などもあり、近くに行くと店員の目が追って来ますが、敢えて入ることはありませんでした。大連は港町だけあってお魚の美味しい店が沢山あります。何処のレストランに行っても刺身を提供しています。最後の日の晩は高級海鮮レストランに行きました。様々な生簀に魚介類がこぼれんばかりに入っています。早速何種類か注文し、大きなヒラメ一匹は刺身にするように頼みました。これが期待に違わず美味しく早くも日本に帰ったような感じでしたが、このヒラメを平らげたところで中国人のボーイが残った頭と骨をスープにするかと訊いて来ました。願ってもないことで、一同感服しながらスープを食しました。またまた雪花ビールが進みます。

旅行中晩御飯の後はホテルに戻り毎晩反省会と称しスーパーで買いこんだビールと白酒を囲んでの茶話会ならぬ酒話会です。満州の水に感謝しながら。

（エルゼビア・ジャパン(株) 桑原七男）

ブック・エキスポ 2013

5月29日から6月1日にかけてニューヨークはジャビッツ・センターにて開催されたブックエキスポ・アメリカ 2013に参加してきました。以前はロス、ワシントン、シカゴなどを巡回していましたが、リーマンショック後のここ数年は、出版社が集まるニューヨークに固定されて開催されています。

私は20年近く世界各地のブックフェアに出かけていますが、この10年でブックフェアそのものの在り方も大きく変化、ビジネスの情報交換はメールやウェブを介することで日常的に済んでしまいます。もちろん現場で仕事もするのですが、私にとっては取引先と実際に顔を突き合わせて互いの無事を確認、一緒に食事や夜遊びに出かけたりのコミュニケーションが重要なポイント?です。

会場では引き続き昔ながらの本のプロモーションも大々的に行われていますが、一般読者にも開放し、新刊の無料配布や500人を超す作家達のサイン会など、とても魅力的な企画もたくさんあり、作家と読者が直接触れ合う幸せな光景が各ブースで見受けられます。「紙でできた本」は作家にとってはかたちになった作品であり、我々読者には手に触れインクや紙の匂いを嗅ぎながら別の世界へと誘ってくれる作品であり、サイン会を見ていると、電子と紙の書籍がうまく共存できる世界が訪れることを切に願ってやみません。

会場を歩いていると絵本「マドレーヌちゃん」の原作者ベームルマンズの息子で、現在のマドレーヌシリーズ

を引き継いでいるジョン・ベームルマンズ・マルシアーノの姿を発見、新刊にサインして無料で配っていたので、思わず列に並んでしまいました。

ニューヨーク開催のメリットは、会場を離れ、市内に分散する個性的な書店を訪れることができることです。私がニューヨークに行くと、真っ先に訪れる書店がブロードウェイ&12丁目にあるストランド・ブックストアです。創立は1927年。新刊と古書が混然一体となって並べられており、特に美術書や写真集の品揃えは全米屈指。自分の身長の高く倍はあろう書棚にぎっしり本が詰まっており、同じ本でもコンディションや価格も様々、希少本から1ドル処分品まで画一的でないところがブックハンターにとっては豊かな森のよう。新刊写真集のコーナーでは写真集バイヤーのプッシュアイテムとして川内倫子さんの作品が積まれていました。やはり日本人の作品がフィーチャーされているとうれしいですね。

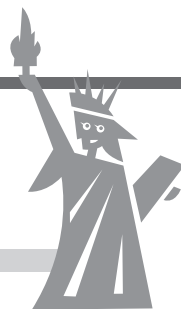
ストランドのオリジナル商品のトートバッグやTシャツはNY土産としても重宝する優れモノですが、やはり書籍の電子化の波に危機感を抱いており、最近Where Books Are Lovedのメッセージキャンペーンを貼っています。写真右はそのトートバッグです。「本の愛されているところ」!ぜひ末永く営業してもらいたいものです。

(右)フォリオス 木暮 欣正



Penguin 移動本屋





5月の最週末のメモリアル・デーの休日からアメリカの夏は始まります。ニューヨークもこのところようやく夏を感じられるようになってきました。9月初めのレイバー・デーの祝日までの3ヶ月間が「夏」とされ、セントラルパークをはじめマンハッタンやブルックリンで様々な野外イベントが企画されています。図書館業界の夏は関連協会の年会続きで6月及び7月は忙しい時期となります。

今回は今アメリカの高等教育界で脚光を浴びているMOOCs (Massive Open Online Courses) について簡単に触れたいと思います。MOOCs (ムークス: 大規模公開オンライン授業) は一流大学の教員により提供される参加型オンラインコースで、世界中どこでも無料で受講することができる新しい教育ビジネスモデルです。

急上昇するアメリカの大学の学費とオンラインラーニングのモデルの発展を主な背景として始まった MOOCs ですが、スタンフォード大学、MIT、ハーバード大学といった名のある大学が MOOCs プロバイダーとして積極的に関与していることも話題性を高めていると考えます。主要な MOOCs プロバイダーとしては Coursera、EdX、Udacity の3社があり、中でもスタンフォード大学の教授が始めた Couresa の規模が最も大きく、現在提供するコースの数は 200、3 年以内にその数を 3000 に増やす計画だと聞きます。受講生の数は今年の初めの時点で 2 百万、毎週 7 万人の新しい受講生の参加があるようです。さらに5月末には 10 のアメリカの大学及び学校と新たに提携し、今後ますます規模が拡大することが容易に想像されます。

大学側はより多くの受講生に授業を提供できること、MOOCs を通じて大学の外に向けてもブランド力を高められること、そして受講生にとってはオンラインのフレキシブルさ、無料でエリート大学の授業にアクセスできることなどの魅力がある反面、MOOCs の成長とともにここ最近では慎重論も聞こえてくるようになりました。先月はハーバード大学の教授達が MOOCs にかかるコストや高等教育全体に対する影響を懸念し、より厳しく MOOCs を監視する要請を大学に対して出していますし、サイエンス教育にはそもそも MOOCs は向かないという意見も聞かれます。

MOOCs の発展に伴い、学術図書館関係者の間でも MOOCs と学術図書館の関係についての議論がなされています。OCLC が3月に開催したミーティングでの議論をもとに今後想定される学術図書館の役割が Library Journal 5/15 号にまとめられていましたのでご紹介します。

1. Clearing Copyright Content

MOOCs コース作成初期段階で著作権問題絡みでサポートを提供する。

2. Supporting production

コースの制作過程において場所やソフトウェア、PC、またそれらの利用におけるトレーニングを提供する。

3. Supporting Students

現状は学生同士でサポートしあうケースが多いが、自分たちで解決できない場合は図書館にサポートを求めることが想定できる。

4. Measuring a MOOC

MOOC の成功を測る方法はまだ確立していないが、様々なデータのレポジトリとしての役割が増えている図書館が貢献できる面はあるはず。

5. Preservation

MOOCs の今後を考える上でデータの保存についても検討する必要があり、図書館にその役割が求められる可能性は高い。

図書館側が直面する課題としては、MOOCs の受講生数がキャンパス内の講義の場合よりも大幅に多いこと、第3者プロバイダーによってコースが提供されていることで自由が効かないなどが挙げられています。

MOOCs が高等教育に与える影響や今後の展開に関してはまだ未知数な部分が多くあります。MOOCs の授業を自らの大学の単位として認める大学が増えていくのか、オフラインの授業との関係はどうなるのかなど、今後 MOOCs が大学のカリキュラムにどう統合されていくかによって今後の大学教育のあり方、図書館の役割がさらに変わっていくのではないのでしょうか。

平野圭子 @ ニューヨーク

海外出張・海外見本市視察

～格安航空券＋市内ホテルのお得な自由日程旅行プラン～

FRANKFURT BOOK FAIR 2013 視察のご案内

開催日程：2013年10月 9日（水）～10月 13日（日）

10月8日出発 航空券 ＋ ホテル手配

★INTERCITY HOTEL MAINZ (★★★)

マインツ中央駅横に位置し、見本市会場までSバーンにて約40分に位置するスタンダードクラスホテル
旅行代金：4泊6日 ￥199,000（お一人部屋追加代金 ￥51,000）

★HOTEL MOVENPICK OBERURSEL (★★★★)

見本市会場までSバーンにて4駅、最寄り駅より徒歩約5分に位置するスーパーリアクラスホテル
旅行代金：4泊6日 ￥225,000（お一人部屋追加代金 ￥68,000）

★HOLIDAY INN EXPRESS MESSE (★★★)

中央駅南側に位置し、最寄駅（約1km）からSバーン見本市会場駅まで1駅のスタンダードクラスホテル
旅行代金：4泊6日 ￥228,000（お一人部屋追加代金 ￥88,000）

★HOTEL MONOPOL (★★★★)

中央駅に隣接し、見本市会場まで徒歩約10～15分に位置するスーパーリアクラス
旅行代金：4泊6日 ￥249,000（お一人部屋追加代金 ￥92,000）

★HOTEL INTER-CONTINENTAL<CITY WING> (★★★★)

マイン川沿いに位置し、見本市会場まで徒歩圏内、中央駅にも近いファーストクラスホテル
旅行代金：4泊6日 ￥278,000（お一人部屋追加代金 ￥126,000）
※5泊7日の特別プランもございますので、是非お問い合わせください。

★HOTEL MOVENPICK CITY<MESSE> (★★★★)

見本市会場（4号館付近）に隣接するファーストクラスホテル
旅行代金：4泊6日 ￥289,000（お一人部屋追加代金 ￥120,000）

ホテル確保数には限りがございます。料金及び諸条件等お早めにご相談ください。
6月中にお申し込みのお客様には、上記旅行代金より▲¥20,000の早期割引を適用いたします。
※空席状況により適用外となる場合もございます。

☆弊社では下記見本市の旅行手配を毎年行っております。

LONDON BOOK FAIR（ロンドン）

FRANKFURT BOOK FAIR（フランクフルト）

PARIS BOOK FAIR（パリ）

HONG KONG BOOK FAIR（香港）

BOLOGNA CHILDRENS BOOK FAIR（ボローニャ）

BEIJING BOOK FAIR（北京）

BOOK EXPO AMERICA（ニューヨーク）

TAIPEI BOOK FAIR（台北）

お問い合わせ：株式会社ジェイワールドトラベル

JATA正会員（観光庁長官登録旅行業第1359号）

TEL:03-3402-9955 / FAX:03-3402-9698 担当：藤代

URL:www.jw-trvl.co.jp / E-mail:tet@jw-trvl.co.jp

その他、早割り航空券やビジネスクラス・ディスカウトの手配・国内出張なども扱っております。